

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

つ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

それを言っちゃあ、おしまいでしょ

<令和6年度のスタートにあたって>

私事ながら、教職に就く以前に、民間の金融機関（某信託銀行）に5年間勤務していました。就職して間もなく大学時代の仲間が集まると、特に公務員になった友人から「いいよなあ、銀行員は給料が高くて」とよく言われたものです。

自分は別に給料云々でその会社を選んだわけでもないですし、どんな会社や業種・職種がどれくらいの初任給や生涯賃金なのか、自分が今どれくらいの月給なのかさえも全く無頓着な方でしたので、そういった話題には特に大きな関心も示しませんでした。ただ、心の中では「じゃあ、お前ら、給料高い順番調べて、一番高い職業や会社選んで入ればよかったんじゃないの。」とっていました。

その後銀行を辞して中学校の教職に就きました。給料は銀行時代に比べ激減しました。銀行時代の仲間と集まると今度は、「いいよなあ、学校の先生は夏休みもあるし休みが多くて。」と言われました。

別に休みが多いから学校の先生になったわけではありません。それどころか、休日や夏休みなども、部活動の練習や大会、研修、学校行事や生徒指導等に明け暮れて、まとまった休みなどとれた記憶はありませんでした。自分の子どもよりもひと様の子どもの時間の方が長くて、家族旅行もゆっくりした経験もありませんでした。心の中で、「じゃあ、お前ら、休暇のとれる日数の順番調べて、一番多く休みがとれる職業や会社選べばよかったんじゃないの。」とっていました。

教職に就いて間もなくの頃の失敗談。クラスで一番地声が大きくておしゃべり好きの女の子に向かって、「おまえの声って本当に大きいよなあ。耳がつんざくくらいだよ。」と言ったら、その子が急に表情を曇らせ「ごめんなさい先生。私生まれながらに左耳が聞こえないんです。普通にしゃべっているつもりでも、よくやかましいと人に言われて。今度から気を付けます。」彼女に何度も何度も謝ったほろ苦い思い出。

知人の若い女性が、年齢不相応のきらびやかで高価そうな貴金属を身につけていたので、「すごいね。めっちゃ高かったでしょ。でも、どうかなあ。ちょっと派手だしあなたにはあまり似合わないよ。」と何気なく言ったら、「いえ、これ誰になんて言われても、ずっと身に付けます。私が大好きだった亡くなったおばあちゃんが、私に残してくれた、たった一つの大事な大事な形見なんです。」

さて、人の心の内面なんて他人には決してうかがい知れないものです。その人の歩んできた人生も、その人の置かれている環境や立場も、個人的に抱えている事情や苦悩も、その人しかわからないことがたくさんあるのです。

にもかかわらず、私たちの周りには、当たり前のように、人を傷つける言動や噂話があふれています。土足で他人の内面に踏み込んでくるような言葉。物事の一面や表面だけを見て全体を判断してしまったこと。何も知らないくせに、一から十までわかってもないのに、偉そうに言ってしまったこと。単なる一部の人間の噂なのに、あたかも真実のように触れ回してしまったこと。自分の思い込みや判断だけでつい口にしまったこと。そんなこと余計なお世話でしょということや、ひがみややっかみの類等々。このようなことで嫌な思いをしたこと、させたことはありませんか。私は山ほどあります。いつもどこかで誰かが傷つき、どこかで誰かを傷つけている、悲しいかな、それが現実社会の常であると思います。

我々は狭い社会で生きています。その中でいろいろな人間と関わります。気の合う人や価値観が同じ人もいれば、そうでない人もいます。となりの芝生はどうしても自分の芝生よりきれいに見えます。自分が持っていないものを羨んだり、他人の成功や幸福を素直に喜べない醜い部分も多かれ少なかれ持ち合わせています。物事が思い通りいかなかったら苛立ったり、不公平感に憤ったりすることだってあります。自分の家族や子どもが一番大切、そして自分自身が一番大事、それも人として至極当たり前のことです。

だから、時には、不平・不満も言いたくなるでしょう、愚痴も出るでしょう、強く自己主張をすることもあるでしょう。確かに、言いたいことを言わずに我慢していたばかりに、自分がバカをみるのは不合理です。自分の感情を素直に吐露したり、自分で自分の考えをしっかりと主張したり意見することは、決して悪いことではないはずです。

ただし、その前提になるものが存在します。それは、「客観的で正確な情報」の収集と把握、自己の発言や主張に対する「責任」、そして自分の言動が及ぼすであろうすべての人への「配慮」。そしてその根幹をなすのは「思いやり」と「想像力」です。

ところが、往々にしてこの大原則は疎かにされ、自分の損得や利益、単なる感情の爆発だけの言動に遭遇します。当然、自分もそういった過ちを多く犯してきました。

『それを言っちゃあ、おしまいでしょ。』という言葉や場面を目の当たりにするつれ、何ともやるせない気持ちに襲われると同時に、そういう言動で物事が本当に好転などするはずはないのに、という深い懸念を覚えます。

国と国との関係、地域と地域の関係しかり、ご近所同士の関係しかり、生徒と教師の関係、保護者と教師の関係しかり、そして同僚の教師同士、親と子の関係もまたしかり。

「ねえお母さん、ここの宿題の問題どう解くの？」

「こんな簡単な問題、どうしてできないの。」それを言っちゃあ、おしまいでしょ。ここで子どもは傷つきながらも反撃の一言

「だって、ぼくはお母さんの子どもだもの。」それを言っちゃあ、おしまいでしょ。

こんなことが、冗談でなく真顔でやりとりされる日常茶飯のごときになったら、もはや戦争や紛争以上の世紀末の到来ですね。

最後に、昨年度発行の本校長だより第2号でも掲載しました、教職に身を置く者としてまだまだ未熟な自分自身の自戒の念と先生方へのお願いを込めて、老婆心ながら、あらためて、下記の内容を示します。子どもの成長を支えるべき我々すべての大人が肝に銘じるべき内容だと重く受け止めてください。

本日、令和6年度に向けてとりあえず新津第二中学校は離陸しました。あとは、大空に高く高く舞い上がって、目指すべきゴールに向けてただひたすら羽ばたくのみです。

【自戒7箇条】

- 1 相手を好きになる必要はない。でも理解するように努めよ！
- 2 人の噂はしてもいい。でも悪口は言うな！
- 3 怒ってもいい。でも、どなるな・キレるな・傷つけるな！
- 4 保護者の気持ちは、自分がその子の親になったつもりで考えろ！
- 5 外部の人間を大事に扱え！（電話・接客対応）
- 6 自分第一・家庭大事でOK。でも、勤務時間内は全力疾走・全力投球！
- 7 凡時徹底・一点集中！ 「あいさつ」こそが人としての一丁目一番地